

2020年10月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500hPa 高度をみると、北太平洋中緯度帯～北米～ユーラシア大陸西部で波列パターンが明瞭となり、北米の西、ロシア西部で正偏差、カナダ中部、ヨーロッパ北西部で負偏差となった。また、北半球の極渦は平年より弱かった。200hPa 風速をみると、偏西風は東アジア～日本の東海上で平年の位置と比べて北寄り流れ、中国付近で平年よりも強かった。海面気圧をみると、グリーンランドの東～中央アジア、北米北西部で正偏差、ヨーロッパ、ラプテフ海、カナダ中部で負偏差となった。850hPa 気温をみると、ヨーロッパ東部～地中海東部付近、北極付近～東シベリア、米国西部で高温偏差、ヨーロッパ西部、中東東部～東アジア、カナダで低温偏差となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、インド～フィリピンの東、カリブ海で活発、ニューギニアの東～北太平洋熱帯域の中部で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、月の前半は東進が不明瞭で、月の後半にインドネシア付近～太平洋西部を東進した。対流圏上層では、インド洋～インドネシア付近で南北半球対の高気圧性循環偏差、太平洋熱帯域西部～中部で南北半球対の低気圧性循環偏差となった。対流圏下層では、インド洋～インドネシア付近で南北半球対の低気圧性循環偏差、太平洋熱帯域で南北半球対の高気圧性循環偏差となった。海面気圧は、赤道域では、

太平洋の中・東部で正偏差、インド洋～太平洋西部、大西洋で負偏差となった。南方振動指数は+0.6だった。

世界の天候

世界の月平均気温偏差は+0.34℃(速報値)で、1891年の統計開始以降、10月として4番目に高い値となった。10月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.68℃/100年(速報値)である。

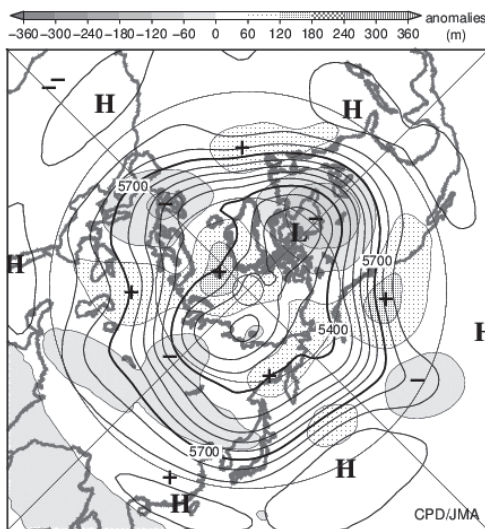
主な異常天候発生地域は次のとおり。

- シベリア北部、中国南西部～インド北東部、ヨーロッパ東部～東アフリカ北部、マダガスカル北部及びその周辺、米国南東部及びその周辺、米国西部～メキシコ西部、コロンビア及びその周辺、ブラジル東部～アルゼンチン北部、オーストラリア南東部及びその周辺で異常高温、中央アジア南部～中東中部、北米中部で異常低温となった。
- ヨーロッパ中部～西部で異常多雨、ヨーロッパ南西部～北アフリカ北部、アルゼンチン北部～ブラジル南部で異常少雨となった。

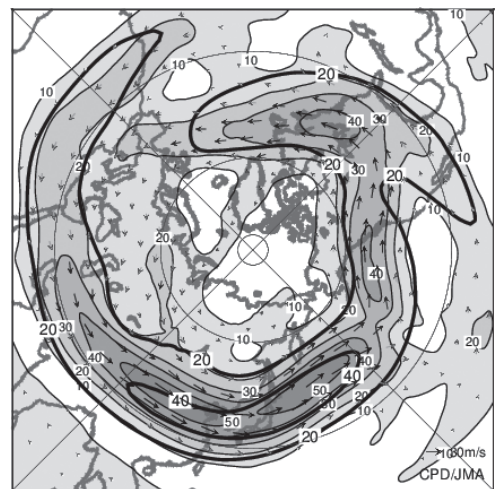
(気象庁 大気海洋部 気候情報課)

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

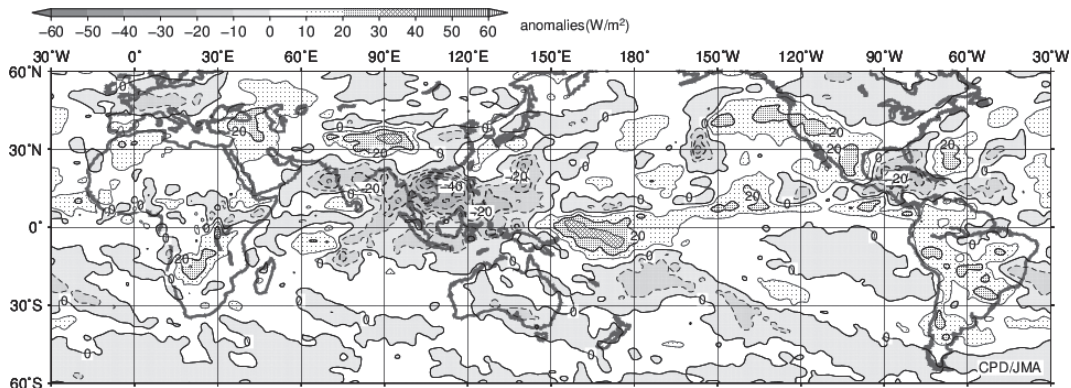
<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



2020年10月の北半球月平均500hPa 高度及び
 平年偏差
 等値線間隔は60m。陰影は平年偏差。平年値は
 1981～2010年の平均値。

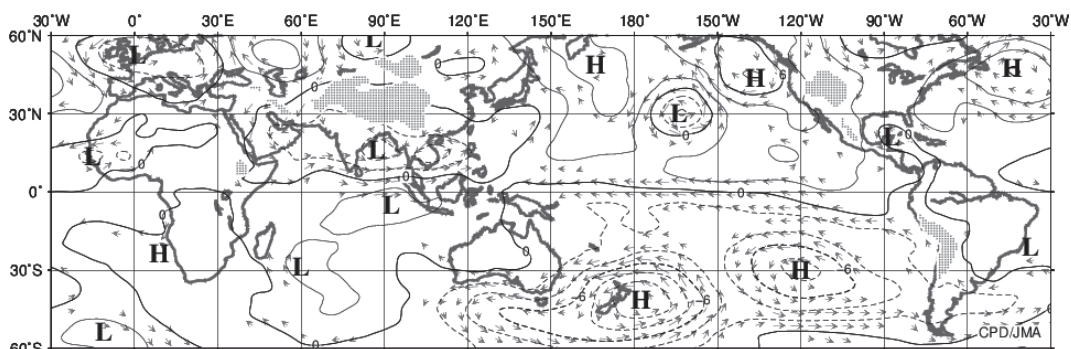


2020年10月の北半球月平均200hPa 風速及び
 風ベクトル
 等値線間隔は10m/s。太実線は平年の風速で等値
 線間隔は20m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



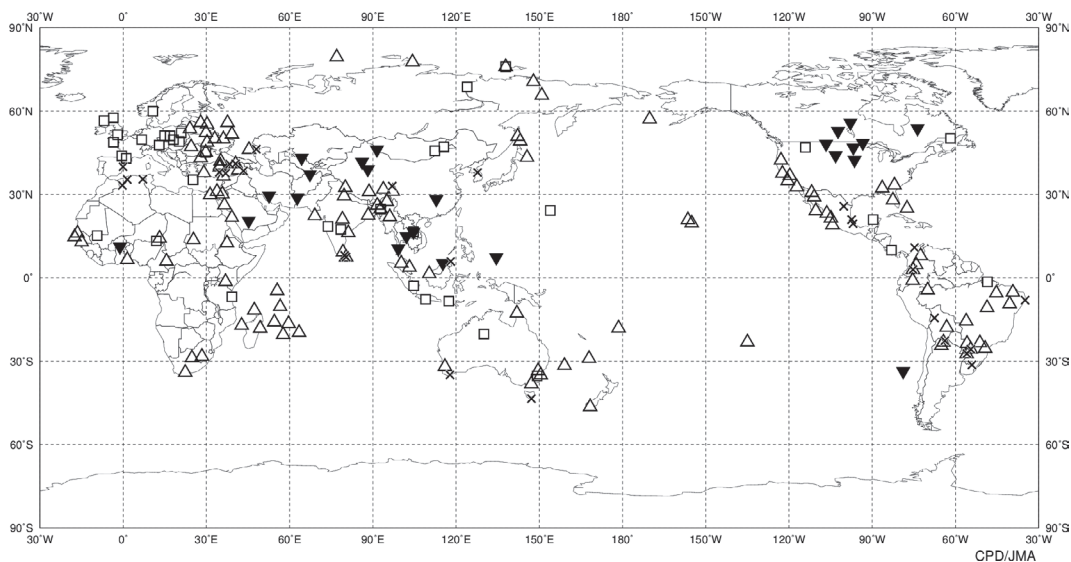
2020年10月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は 10W/m^2 で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁 (NOAA) より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981~2010年の平均値。



2020年10月の月平均850hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル

流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年の平均値。



2020年10月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。